

第4学年 社会科の実践

1 単元名「地域で受け継がれてきたもの」 (全10時間 本時8時間目)

2 単元目標

- 地域の伝統と文化について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 地域の伝統と文化の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。
- 地域の伝統と文化について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

3 「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題 「解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」
手だて・・・子どもの思いや願いを見とった単元構想と授業づくり
ブロックテーマ・・・「追究する力、仲間と支え合う自分」

- ・自分の問題をとことん追究する姿
- ・仲間と協働して追究する姿

〈これまでの関わり合い・ひびき合い〉

これまで一人で考える時間を積極的に取り入れてきた。自分の意見をしっかりと持てる児童が多いため、まずは自分で考えることを大切にしてきた。全体での話し合いは「同じです」と言う児童が多い。しかし、すべて同じ考えか、どこが同じか、似ている部分はどこかまで問うようにしている。そこで考え方に小さな違いがあることに気付かせると新しい発見や話し合いが広がることにつながる場面が見られた。話し合いが広まってくると他人が発言している途中で話してしまう児童が出てくるため、話すときと聴くときの切り替えを意識するよう指導している。

4 単元と指導について

〈単元について〉

本単元では、県内の伝統や文化、先人の働きについて、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の願いが込められていることを理解し、歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、県内の伝統や文化、先人の働きの様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現する力を身に付けることを目指す。

「地域に受けつがれてきたもの」として昭和59年に経済産業大臣指定の伝統工芸品に指定された「箱根寄木細工」について考える。普段身近に見る箱根寄木細工だが、その歴史には高度な技術が受けつがれてきたこと、箱根山の多様な木の種類を生かしてきたということを理解することで、箱根寄木細工を受けついできた人々の努力や工夫に気付くことをねらいにしている。また、東海道や小田原の宿場のにぎわいからみやげ品として盛んになったこと、箱根の資材と土地柄を生かして栄えたことにも気付かせたい。

〈指導について〉

導入では、昔から地域で受けつがれてきたものはどんなものがあるだろうと問いかけるところから始める。児童が一番気になる物を題材にし、調べ学習を行う。児童からは北条五大祭り、かまぼこ、松原神社、ういろう、ちょうちん、箱根寄木細工などがあげられた。その中で、実際に作る体験をしたり所持している人が多かった箱根寄木細工が題材になった。調べ学習を通して題材に対して興味を抱き、実際に体験してみたいという声や詳しい人に話を聞きたいという声が上がることが予想される。調べ学習や、体験活動を通して題材の課題を考え、私たちにできることはあるか、どうすれば解決できそうかなど話し合い活動を取り入れる。これまで様々な教科で私ならという立場を明確にし、話し合い活動をしてきた。前時に一人で考える時間を確保し、本時では自分の考えをより具体的なものにして話し合い活動に取り組ませたい。話し合い活動では受け継ぐとはどういうことかを再度確認してから進める。その中で児童からは下学年に伝える、チラシを作って配りたいという意見が予想される。出た意見に実際に取り組み、表現することで自分事として捉えてほしいと考える。

本時では「もっと箱根寄木細工を知ってもらうために私たちにどんなことができるか」を意見交流し

ている姿をひびき合いの姿とする。

5 単元構想

単元構想 4年社会科「地域で受けつがれてきたもの」全10時間 本時8時間目

【単元目標】

- 地域の伝統と文化について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けることができる。
- 地域の伝統と文化の特色や相互の関連、意味を考える力、社会にみられる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現することができる。
- 地域の伝統と文化について、主体的に学習の課題を解決しようとする態度やよりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養うことができる。

私たちの地域で昔から受け継がれてきたものはどんなものがあるだろう？①

- ・小田原提灯、提灯祭りに行ったよ。
- ・地域のお祭りに参加した。
- ・北条五代祭りにも行ったことあるよ。
- ・いろいろが売られている。
- ・小田原漆器は有名だよ。
- ・箱根寄木細工を持っているよ。
- ・かまぼこは3年生で学習した。
- ・和菓子屋は伊勢屋があるよね。

箱根寄木細工、和菓子はどんなものか？②

〈箱根寄木細工〉

- ・木を組み合わせて作る工芸品。
- ・どうやって作っているのだろう。
- ・お土産で買う人もいます。

〈和菓子〉

- ・伊勢屋さんがあるよね。
- ・和菓子とお菓子の違いってなんだろう。
- ・どうやって作っているのだろう。

一つのテーマに絞るために、それぞれのテーマについて教科書やインターネットで詳しく調べる時間を設ける。

調べ学習を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。(知識・技能)

箱根寄木細工を調べてみよう。③

- ・からくり箱や秘密箱がある。
- ・昔は箱根山の木を使用していたが現在は輸入している。
- ・箱根山の木はもう使ってないみたい。
- ・模様が50~60種類ある。
- ・ティッシュケースやスマホケースもあるみたい。
- ・職人になるまで10年かかる。

どんな課題があるのだろう④⑤

- ・職人が50人くらいなのは少なく感じる。
- ・伝統工芸士は4人しかいないんだって。
- ・職人の高齢化で後継者不足なんだ。
- ・このままではなくなるのかな。
- ・技術を受け継ぐのが難しいんだね。

なくなるピンチ？なぜ少ないのだろう。⑥

- ・知る機会がない。
- ・職人になるまでに時間がかかる。
- ・若い人の興味が少ない。

模造紙などにこれまでの学習の足跡を残し、いつでも見られるように掲示しておく。

課題を把握し、実現できるものを考え、計画している。(思考・判断・表現)

もっと箱根寄木細工を知ってもらうために私たちはどんなことができるだろう。

⑦⑧ (本時)

- ・自分たちがさらに寄木細工に詳しくなる
- ・作ったものを学校で飾る。
- ・チラシを配り、良さを広める。
- ・給食の時間に放送で良さを三の丸小の児童に伝える。
- ・ポスターを掲示し、見てもらう。
- ・イベントを開き、良さを伝える。

自ら課題を把握し、解決の方法を考えている。(主体的に学習に取り組む態度)

自分たちができることを実行する計画を立てよう。⑨⑩

6 本時について

本時について

本時目標 箱根寄木細工を受け継ぐために私たちに何ができるか話し合うことができる。

学習活動		主な支援・留意点 ◇評価【観点】												
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 箱根寄木細工をもっと知ってもらうために わたしたちにできることを考えよう </div> <p>受けつぐとは…寄木細工について詳しくなる→伝えていく</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">誰に</th> <th style="width: 35%;">どのように</th> <th style="width: 50%;">理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>観光客</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシを配る ・寄木を紹介する </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・みりよくが伝わるから </td> </tr> <tr> <td> 地域の人 三の丸小の子供 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントを開く【体験会】 ・本を作る </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・興味を持ってもらえる ・なくならず受けつがれる </td> </tr> <tr> <td>若い人</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシを配る ・ポスターをはる </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しみがわかる </td> </tr> </tbody> </table> <div style="margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> ☆わたしたちにできることは何だろう </div> ➔ <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; width: 200px; height: 60px; display: inline-block;"></div> </div>		誰に	どのように	理由	観光客	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシを配る ・寄木を紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・みりよくが伝わるから 	地域の人 三の丸小の子供	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントを開く【体験会】 ・本を作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味を持ってもらえる ・なくならず受けつがれる 	若い人	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシを配る ・ポスターをはる 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみがわかる 	<p>○わたしたちができることか考えながら話し合いができるようにする。</p> <p>○今までの学習が書かれた模造紙を掲示し学習の流れが見れるようにする。</p> <p>○話し合いがスムーズに行えるように誰に、どのように、理由を分類して板書する。</p> <p>◇箱根寄木細工の問題を把握し、自分の考えを表現することができる。 【思考・判断・表現】</p>
誰に	どのように	理由												
観光客	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシを配る ・寄木を紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・みりよくが伝わるから 												
地域の人 三の丸小の子供	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントを開く【体験会】 ・本を作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味を持ってもらえる ・なくならず受けつがれる 												
若い人	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシを配る ・ポスターをはる 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみがわかる 												

7 実践を終えて

本単元では、地域で受けつがれてきたものは何か考え、最終的に自分たちが一番学習したい内容をテーマに進めてきた。クラスで決めた内容だからこそ、多くの子どもが興味を持って積極的に授業に参加していた。クラスの子どもがからくり箱を持ってきて友達に見せたり、実際に触れたりすることができた。単元を通して子ども自らが調べ学習で箱根寄木細工の魅力、問題に気づき、私たちにできることは何か考えることができた。

〈成果と課題〉

【成果】

- ・子どもたちが箱根寄木細工を実際に持っていたり、見たりしたことがある物が題材になっていたため、興味をもって調べ学習や話し合いに取り組むことができた。
- ・箱根寄木細工をもっと多くの人に知ってもらうために、何ができるか考えた際に「誰に、どうやって、理由」の3つを明確にして考え、ノートに記入したことで話し合いに大きなずれがなく進めることができた。さらに、板書を3つに分けて話し合いを進めたため、友達の意見に共感したり、対象は同じだが違う方法を提案したりとクラスでより良い意見を作ろうとしていた。
- ・チラシやパンフレットを配るという児童が多かったが、理由まで聞いたことで配る目的が異なることに気づくことができた。

【課題】

- ・何を受け継ぐのかという部分を前時で明確にしたり、本時で考えさせたりすることで、さらに話し合いが盛り上がり、深まったと感じる。
- ・私たちができることを考え、話し合いをしたが、SNSやQRコードを使用するという意見が出たため、もう少し条件を付けたり、発問を明確にする必要があった。
- ・発言が苦手な子どもの中にほかの子どもが気付かなかった意見があったため、そういった子どもへの配慮が必要であった。本時は全体の発表のみで進めたが、グループでの話し合いの時間を設けるなどの工夫が必要であった。

